

「シルバー腹膜透析カテーテルによる腹膜透析関連腹膜炎に対する影響」に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2026 年 8 月 21 日～ 2029 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

シルバー腹膜透析カテーテルによる腹膜透析関連腹膜炎に対する影響

〔研究目的〕

腹膜透析は末期腎不全に対する腎代替療法の 1 つであり、医療費の低減、生活の質の向上、残存腎機能のより良好な維持など、血液透析に比べて複数の利点があるとされています。こうした利点にもかかわらず、日本では腹膜透析患者が全透析患者のわずか 3.0%であり、血液透析が依然として主流の治療法です。その原因の 1 つに腹膜透析特有の合併症の存在が考えられており、その代表例が腹膜炎です。腹膜炎を減らすことは長期的な腹膜透析継続率向上に直結するため、予防は極めて重要です。腹膜透析カテーテル自体の設計・材料改良は感染の一次予防手段として着目されており、その 1 つとして近年銀含有のシルバー腹膜透析カテーテルが開発されました。本研究は、このシルバー腹膜透析カテーテルを使用することで腹膜炎の発症率や発症までの期間、その起因菌に違いが出るかを明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕

腹膜炎発症率が減少することを期待して開発されたシルバー腹膜透析カテーテルの効果を確認することにより、腹膜炎発症率の軽減による腹膜透析の安全性向上、腹膜透析継続率の改善、コスト削減に寄与する可能性があります。逆にシルバー腹膜透析カテーテルの有効性が限定的であれば、材料コストや潜在的合併症を踏まえて導入の是非を評価する材料となり得ます。

〔対象・研究方法〕

本研究では、2017 年 4 月 1 日より 2025 年 6 月 30 日までの間に帝京大学ちば総合医療センター腎臓内科において腹膜透析カテーテルを挿入した患者様が対象です。使用したカテーテルの種類がシルバー腹膜透析カテーテルかどうかを含めた診療情報を用いたデータベースを構築し、使用した腹膜透析カテーテルの種類と腹膜炎の関係性の有無を明らかにします。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 第三内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

患者様の情報は個人を同定できないように加工して扱います。情報が外部に漏れることはありません。研究の終了後、情報は帝京大学臨床研究センター(Teikyo Academic Research Center)において、10 年間の保管の後に破棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 伊藤 靖子 職位 助教

研究分担者:氏名 伊藤 孝史 職位 教授

所属: 帝京大学ちば総合医療センター 第三内科学講座(腎臓内科)

住所: 〒299-0111 千葉県市原市姉崎 3426-3 TEL:0436-62-1211(代表)